

作成	承認

簡単取扱説明書

(S&DLハンディターミナル)



応用計測サービス株式会社

本簡単取扱説明書は、あくまで簡易な使用方法についての取扱説明書です。ご使用に関して機器取扱説明書を十分ご理解の上で正しくご使用くださるようお願いします。



注意

本簡単取扱説明書は、簡易な使用方法についての取扱説明書です。詳細については機器取扱説明書十分理解して使用してください。

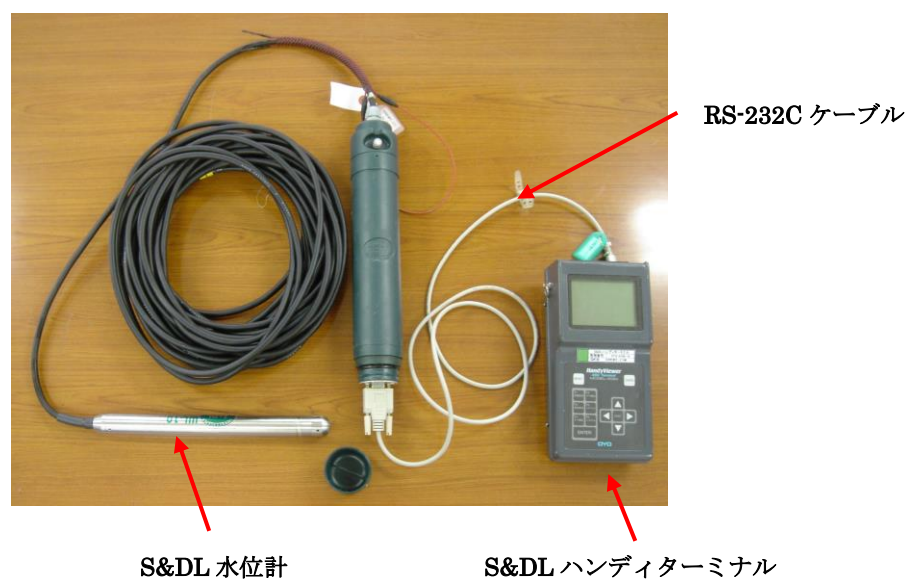
1	本品仕様	P-1
2	接続方法	P-1
3	測定準備	P-2
4	測定方法	P-2
5	結果	P-5

1 本品仕様

項目	仕様
インターフェース	RS-232C
ボーレート	150, 300, 600, 1200, 2400, 4800, 9600 bps (標準 9600 bps)
データ長	8ビット
パリティ	なし
ストップビット	1ビットまたは2ビット (標準 2ビット)
フロー制御	なし(OFF)
適合メモリーカード	256k, 512k, 1M, 2M, 4M (JEIDA Ver.4 準拠品)
動作電圧範囲	4.6V~6.6V (単三乾電池×4個)
消費電流	70mA (typ) バックライト OFF 時
	170mA (typ) バックライト ON 時
動作温度範囲	0~50°C

2 接続方法

S&DL ハンディターミナルと S&DL 水位計を RS-232C ケーブルで接続します。



3 測定準備

ハンディターミナルには点検用の単 3 アルカリ電池が 4 本入っております。ご使用の際は新品のアルカリ電池をご用意下さい。

詳細については機器取扱説明書 P2-3 をご参照下さい。

4 測定方法

詳細については機器取扱説明書 P2-7~P2-37 をご参照下さい。

S&DL ハンディターミナルの電源スイッチを ON またはリセットスイッチを押しますと画面 1 が表示されます。

OYO

Handy Viewer

SDL

ハンディターミナル

Ver 3.20

94/08/02 13:00:00

接続機器=[*****]

画面 1

接続機器=[*****]に、前回選択されている S&DL 機器名が表示されます。

5 秒間表示した後、画面 2 が表示されます。

F1 共通設定

RS-232C : 9600bps 2stop

日付 : 94/12/10

時間 : 10:08:00

YES[ENTER]

画面 2

画面 2 で[ENTER]キーを押すと S&DL 機器の種別を判断して、自動的に S&DL 機器の選択を行います。また S&DL 機器の日付と時間が S&DL ハンディターミナルの内部時計と同じ時刻に設定されます。なお機種の種類、S&DL ハンディターミナルの内部カレンダーおよび内部時計は、[F6]システムで設定できます。

[ENTER]キーを押した後に

“応答がありません 接続を確認して下さい”と表示された場合、S&DL 機器の電池の交換や F5 インターフェースでストップビットを 1 または 2 に変更をして再度[ENTER]キーを押して下さい。

ここからは[SDL10 水位計]を例にします。

F2 測定条件設定[SDL10 水位計]

デバイスNo. : 00
開始月日 : 93/12/10
開始時間 : 15 : 00
測定間隔 : D00H01M00
GL 深度 : 0000.00(m)
標高 : 0000.00(m)
YES[ENTER]

画面 3

[F2]キーを押すと画面 3 が表示されます。

条件の設定は、[△]、[▽]キーを使用してカーソルを設定したい項目に移動し、[▷]キーを押すと、カーソルがそれぞれの桁に移動します。[△]、[▽]キーを使用して変更できます。他の項目に移動する場合は、カーソルを[◀]、[▷]キーで設定項目の左端に移動させ、[△]、[▽]キーを使用して設定したい項目に移動させて下さい。全ての測定条件の入力が終わりましたら[ENTER]キーを押して決定します。

F3 データ確認/測定

データ確認
測定開始/停止
測定条件確認

校正 SDL10 水位計
YES[ENTER]

画面 4

[F3]キーを押すと画面 4 が表示されます。

キー操作は上記同様です。カーソルを合わせ、[ENTER]キーを押すことで設定を確認、変更することができます。

F3 データ確認

設置水深 : 04.56(m)
GL 深度 : 0013.00(m)
GL 水位 : 0008.44(m)
標高 : 0100.00(m)
水位標高 : 0091.56(m)
電圧 : 06.75(V)
通信中… 終了[CANCEL]

画面 5

F3 データ確認 (画面 5) は、接続されている S&DL 水位計の動作確認を行います。

F3 開始/停止

測定開始
測定停止

YES[ENTER] NO[CANCEL]

画面 6

F3 開始/停止 (画面 6) は、**S&DL 水位計の測定を開始もしくは停止させることができます。**

F3 測定条件確認

DEV=00[SDL-10] 測定停止
日付 : 95/03/20 11:30
ID : 00001-01234
間隔 : 00日 01時間 00分
GL深度 : 0014.00(m)
標高 : 0100.00(m)
通信中… 終了[CANCEL]

画面 7

F3 測定条件確認（画面 7）は、S&DL 水位計に設定されている測定条件を読み出して表示確認することができます。

F4 データ収録

データ収録モードに入ります
よろしいですか？

メモリーカード残容量
約：28274 データ

YES[ENTER]

画面 8

F4 データ収録（画面 8）は、S&DL 水位計に蓄積されているデータをメモリーカードに収録します。データ収録を行う場合、[ENTER]キーを押して下さい。画面 9 が表示されます。

F4 データ収録

デバイスNo. : 00
ID No. : 00001-00100

データNo. : 001
データ収録：全データ

YES[ENTER] NO[CANCEL]

画面 9

- デバイスNo.
装置番号を表します。
- ID No.
蓄積されたデータの ID 番号を表示します。設定変更はできません。
- データNo.データの収録番号を自動的に選び番号（メモリーカード内で使用されていない収録番号）を表示します。番号を指定する場合は、[△]、[▽]、[◀]、[▶]キーを使用して変更できます。
- データ収録

F4 データ収録

デバイスNo. : 00
ID No. : 00001-00100

データNo. : 001
データ収録：スタート ID 指定
: 00050

YES[ENTER] NO[CANCEL]

画面 10

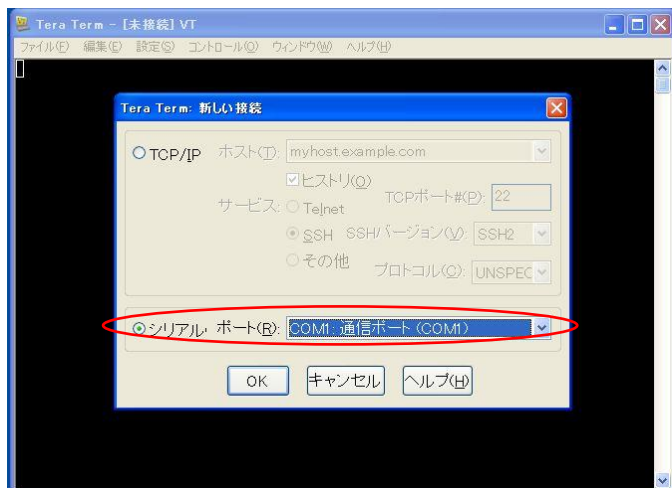
- データ収録
データ収録には、全データ収録と部分データ収録の 2 種類があります。画面 9 で[ENTER]キーを押すと S&DL 水位計に蓄積されている全データをメモリーカードに収録します。部分データ収録の場合は「スタート ID 指定」を選択します。データ収録にカーソルを運び、[◀]、[▶] キーを使用して「スタート ID 指定」を選びます。画面 10 のようになり、スタート ID 番号が表示されますので、先頭 IDNo.を指定します。[ENTER]キーを押すと、指定した IDNo.のデータから残り全てのデータが収録されます。

5 結果（データ転送）

5-1 Tera Term（テラターム）のセットアップ方法

フリーソフトである通信ソフト Tera Term（テラターム）を使用した場合の取扱い方法を以下に示します。（ソフトのバージョンによって設定画面の表示される順番やメニューの場所が違う場合があります）

Tera Term は <https://ja.osdn.net/projects/ttssh2/releases/> でダウンロードが可能です。
（2019年6月現在）

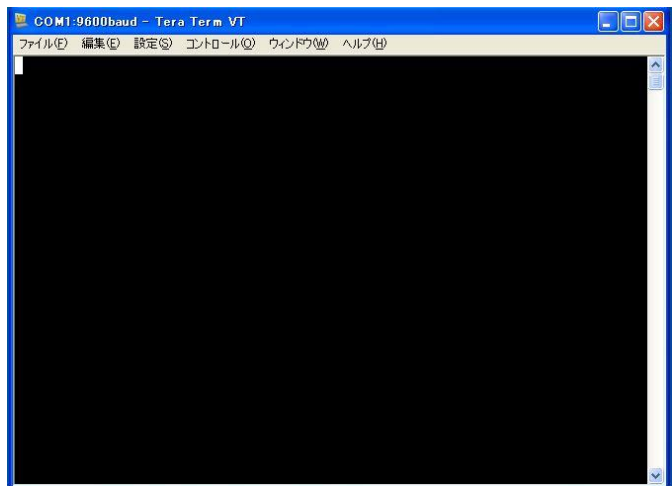


Tera Term を起動します。

シリアルポートを選択し、接続するポートを選択し **OK** をクリックします。

（通常は COM1 ですが、複数のポートを有するパソコンでは COM1, COM2... と表示されますので、使用するポートを選択してください）

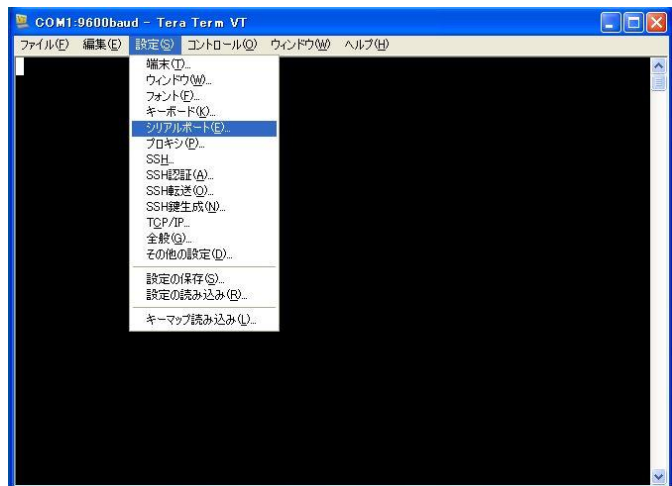
※USB変換アダプターをご利用の場合は、接続毎に COM 番号をご確認ください。



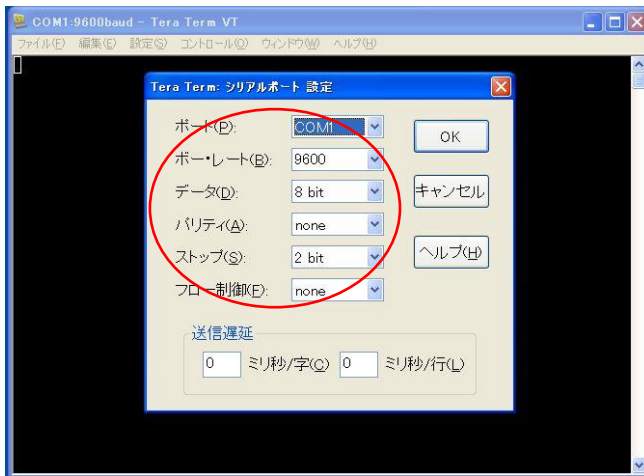
確認方法は **スタートバー** → **コントロールパネル** → **システムとセキュリティ** → **デバイスマネージャー**

デバイスマネージャーのポート（COMとLPT）で使用しているCOMポートを確認して下さい。

画面が表示されます。



設定 → **シリアルポート** を選択します。



「Tera Term : シリアルポートの設定」

画面で

ボー・レート : 9600

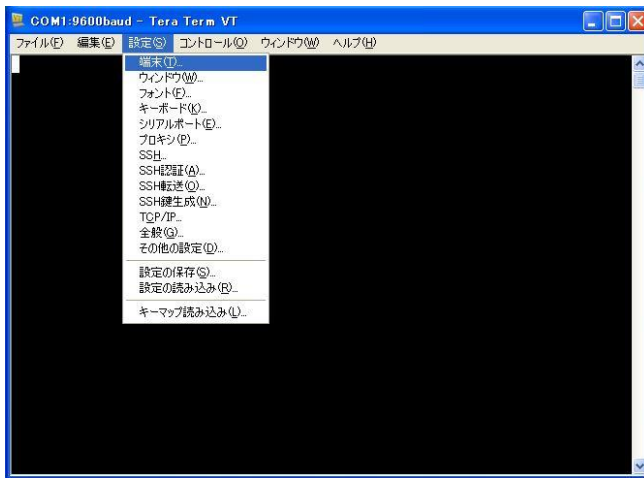
データ : 8 bit

パリティ : none

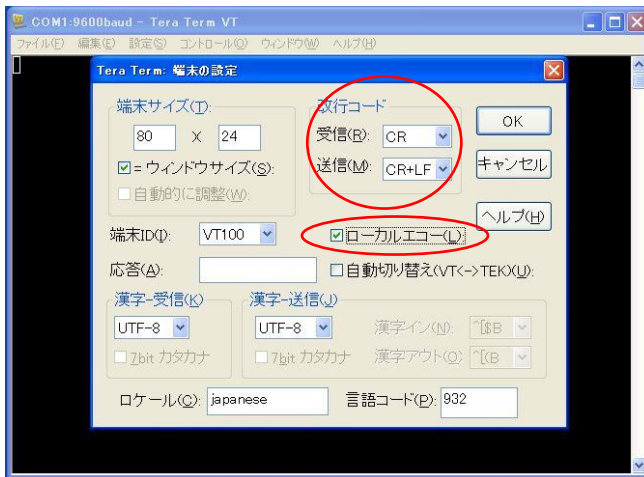
ストップ : 2 bit

フロー制御 : Xon/Xoff または none

を選択し、**OK**をクリックします。



次に**設定** → **端末** を選択します。



「Tera Term : 端末の設定」画面で

改行コード : 受信 : CR 送信 : CR+LF

を選択し、ローカルエコーにチェックを入れてください。

以上で設定は終了です。

※上記の設定は Tera Term の接続設定を保存することが可能です。「設定」→「設定の保存」を行ってください。

設定を保存すると、次回起動時に「設定」→「設定の読み込み」からすぐに通信が可能になります。

5-2 テキストファイルの作成

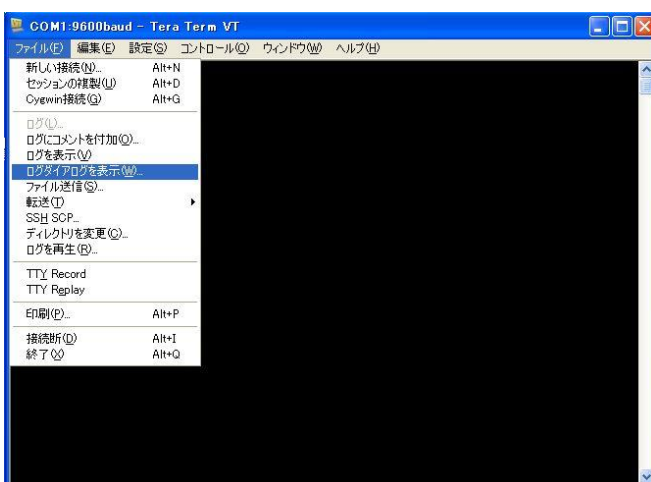


ファイル → ログ を選択します。

保存するフォルダとファイル名を選択できる画面が表示されますので、任意の場所を選びファイルを作成してください。

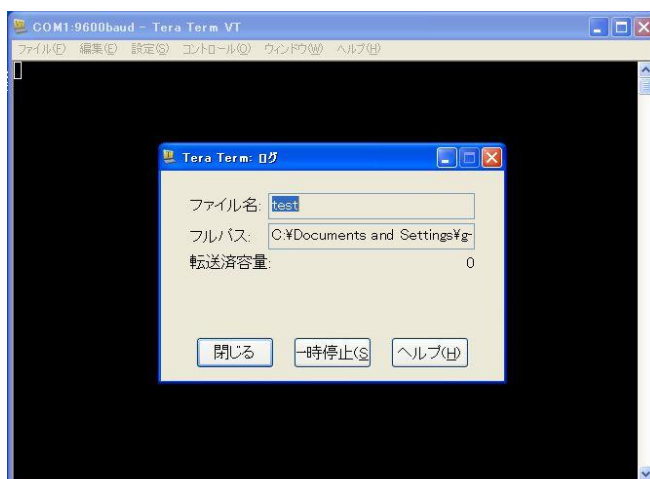
S&DL ハンディターミナルからデータを転送します。

※S&DL ハンディターミナルのデータ転送方法は次ページをご参照ください。



通信を終了する場合は、

ファイル → ログダイアログ を表示
を選択します。



【Tera Term:ログ】の画面が表示されますので、閉じるを選択してください。

先ほど任意で指定した保存場所にテキストファイルが作成されています。

作成されたテキストファイルは、表計算ソフト（Excel 等）でのデータ整理が可能です

5-3 S&DL ハンディターミナルの操作方法

F5 インターフェース
ボーレート : [9600bps 2stp]
データ転送 :
メモリーカード : ディレクトリ
 : 読出し
 : 消去
 : フォーマット
YES[ENTER]

画面 11

F5 インターフェース (画面 11) は、パソコンとの通信速度、メモリーカードのデータ転送 (パソコン等にメモリーカードのデータを転送)、メモリーカードの操作 (ディレクトリ、読出し、消去、フォーマット) を行うことができます。

通信を開始する前に画面 11 でボーレート、およびストップビットを設定します。(通常は **9600bps 2stp**) ボーレートおよびストップビットを選択する場合は [△]、[▽] キーで「ボーレート」にカーソルを合わせます。ボーレートは [▷] キー、ストップビットは [◁] キーを使用して変更できます。

F5 データ転送
ボーレート : [9600]
ストップ bit : [2]
データNo. : [001]
ID : 全データ
YES[ENTER] NO[CANCEL]

画面 12

画面 11 で「データ転送」を選び [ENTER] キーを押すと画面 12 が表示されます。

(通常はボーレート [9600]、ストップ bit [2])

- データNo.

S&DL ハンディターミナルのメモリーカードに収録されているデータNo.を設定します。

- ID

データ転送には、**全データ転送と、部分データ転送の 2 種類があります**。全データ転送の場合は、「全データ」を選択し、部分データ転送の場合は「ID 指定」を選択します。画面 12 の状態で [ENTER] キーを押すと S&DL ハンディターミナルのメモリーカード蓄積されているデータNo.001 のデータを全てコンピュータに収録します。「ID 指定」を選択する場合は、[△]、[▽] キーを使用して「ID」にカーソルを運び、[◁]、[▷] キーで「ID 指定」を選びます。画面 13 のようになり、スタート ID 番号が表示されますので、IDNo.を指定します。

F5 データ転送
ボーレート : [9600]
ストップ bit : [2]
データNo. : [001]
ID : ID 指定
 : 00010-00100
YES[ENTER] NO[CANCEL]

画面 13

[ENTER] キーを押すと、指定した IDNo.間のデータをコンピュータにデータ転送します。

詳細については機器取扱説明書 P2-38~P3-9 をご参照下さい。